

認知症に関する県民の意識等調査結果

【調査目的】

認知症に関する意識や認知症の人等に対する支援のあり方などについてご意見を伺い、今後の施策検討の参考とするため。

【担当課】 福祉保健部 長寿社会課

【調査機関】 令和7年6月23日 ～ 令和7年7月14日

【調査対象】 ながさきWEB県民アンケート全モニター 347名

【回答状況】 回答者 240名 (回答率 69.2%)

◆回答者の年齢構成

年代	人数	構成比
10代	6人	2.5%
20代	8人	3.3%
30代	54人	22.5%
40代	62人	25.8%
50代	59人	24.6%
60代	30人	12.5%
70代	18人	7.5%
80歳以上	3人	1.3%
合計	240人	100%

※回答は、項目ごとに小数点以下第2位を四捨五入しているため、項目ごとの合計が100%にならない場合があります

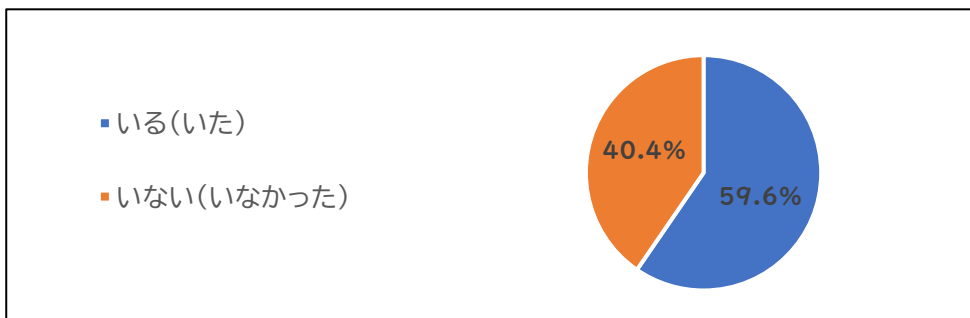
※構成比は、回答者数に対する割合です

【調査結果】

（認知症の人との関わり）

Q1 あなたの身近（家族や親戚、近隣や職場の方等）に認知症の人はいますか（いましたか）。

選択肢	回答者数	構成比
① いる（いた）	143人	59.6%
② いない（いなかった）	97人	40.4%
合計	240人	100%



Q2 あなたはその人とどのような関係ですか（でしたか）。（複数選択可）

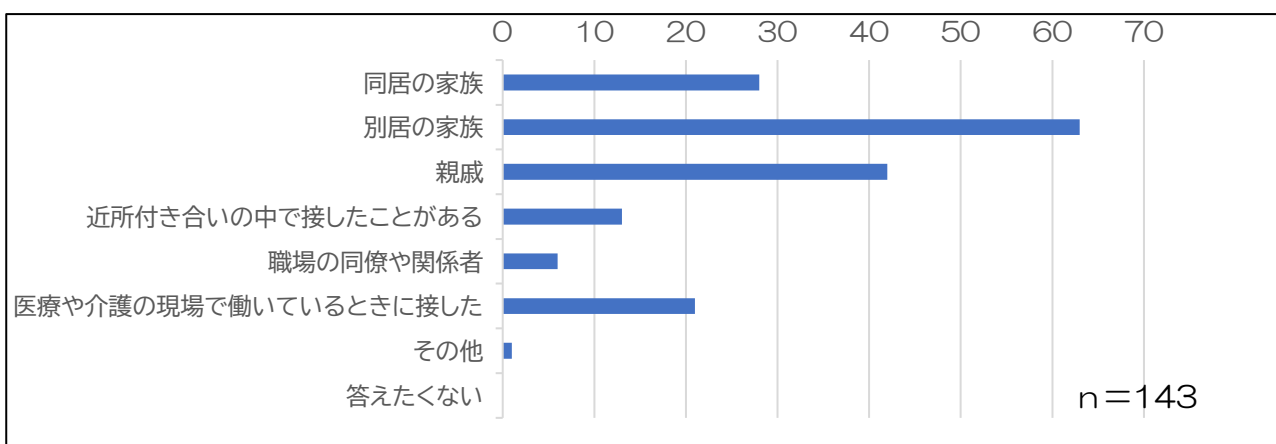
※Q1で「いる（いた）」と答えた方（143人）が対象

選択肢	回答者数	構成比
① 同居の家族	28人	19.6%
② 別居の家族	63人	44.1%
③ 親戚	42人	29.4%
④ 近所付き合いの中で接したことがある（あった）	13人	9.1%
⑤ 職場の同僚や関係者	6人	4.2%
⑥ 医療や介護の現場で働いている（いた）時に接した患者や介護施設の利用者	21人	14.7%
⑦ その他	1人	0.7%
⑧ 答えたくない	0人	0%

●⑦その他の回答

※構成比は、回答者（143人）に対する割合

・入院中の家族



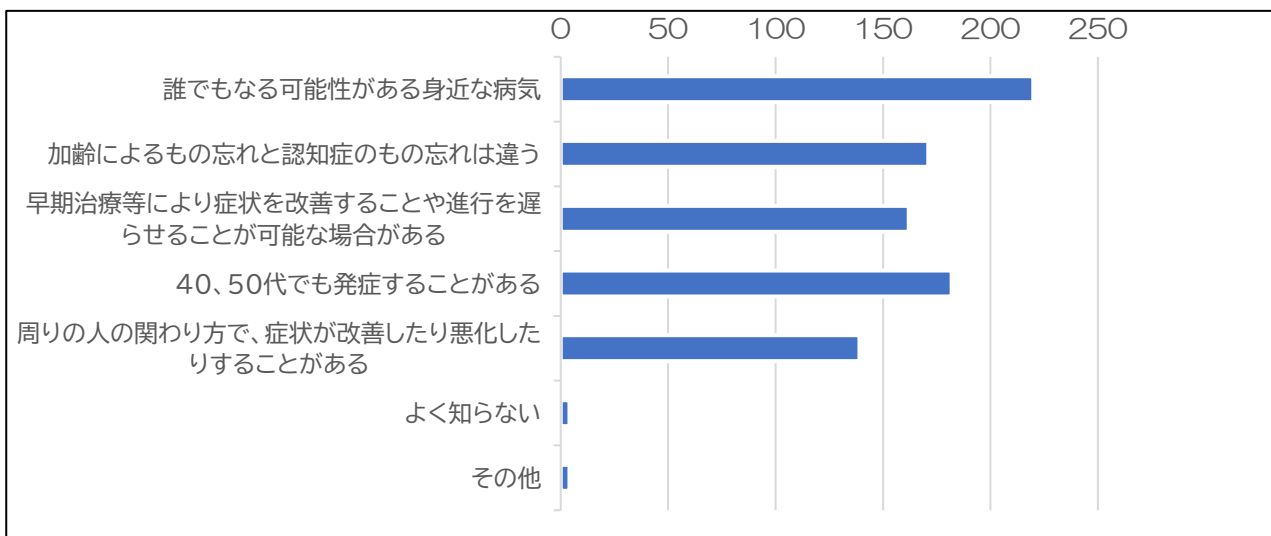
(認知症に関する意識)

Q3 あなたは認知症についてどのようなことを知っていますか。(複数選択可)

選択肢	回答者数	構成比
① 誰でもなる可能性がある身近な病気である	220人	91.7%
② 加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れは違う	171人	71.3%
③ 早期受診・治療等により症状を改善することや進行を遅らせることが可能な場合がある	162人	67.5%
④ 40代、50代などの働き盛り世代でも発症することがある	182人	75.8%
⑤ 周りの人との関わり方で、症状が改善したり悪化したりすることがある	139人	57.9%
⑥ よく知らない	4人	1.7%
⑦ その他	4人	1.7%

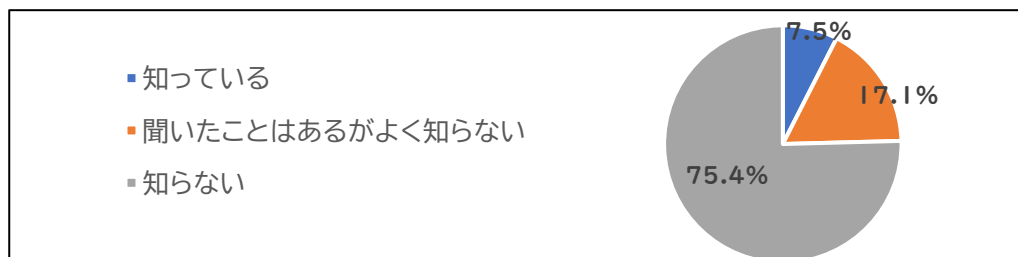
●⑦その他の主な回答

- ・「病気」ではなく、症状である
- ・普段は温厚な方でも性格まで変わるのかと思う症状がある
- ・聴力が衰え、そのままだと認知症になりやすい
- ・薬の副作用が原因でもある



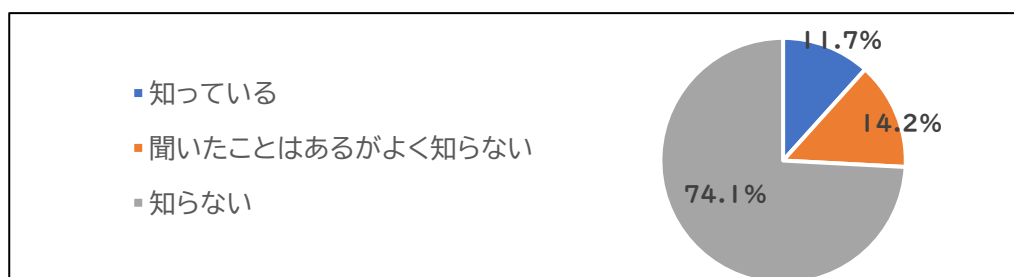
Q4 令和6年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されたことを知っていますか。（1つ選択）

選択肢	回答者数	構成比
① 知っている	18人	7.5%
② 聞いたことはあるがよく知らない	41人	17.1%
③ 知らない	181人	75.4%
合計	240人	100%



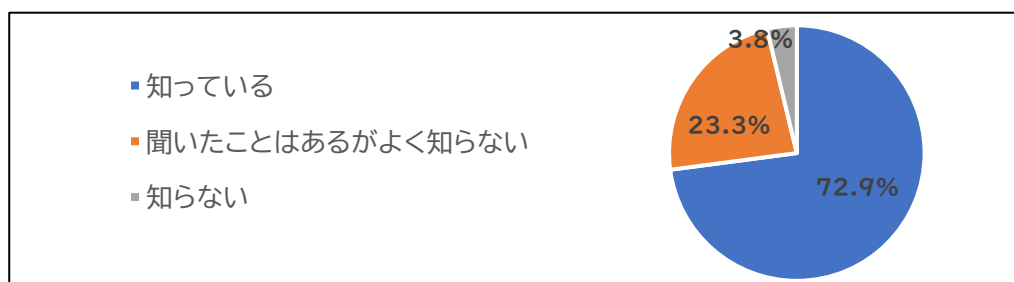
Q5 認知症になってからも個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って暮らし続けることができるという考え方を「新しい認知症観」といいます。あなたは「新しい認知症観」という言葉を知っていましたか。（1つ選択）

選択肢	回答者数	構成比
① 知っている	28人	11.7%
② 聞いたことはあるがよく知らない	34人	14.2%
③ 知らない	178人	74.1%
合計	240人	100%



Q6 あなたは「若年性認知症」（65歳未満で発症する認知症）を知っていますか。（1つ選択）

選択肢	回答者数	構成比
① 知っている	175人	72.9%
② 聞いたことはあるがよく知らない	56人	23.3%
③ 知らない	9人	3.8%
合計	240人	100%

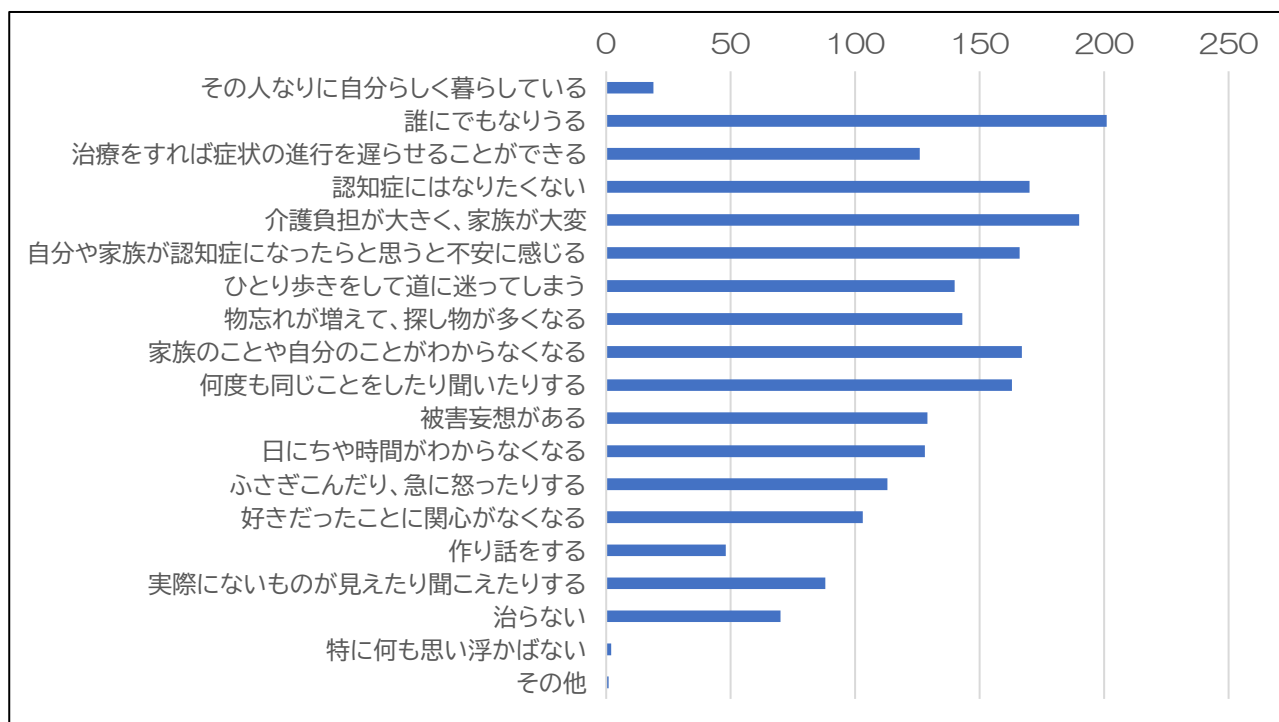


Q7 「認知症」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか。（複数選択可）

選択肢	回答者数	構成比
① その人なりに自分らしく暮らしている	19人	7.9%
② 誰にでもなりうる	201人	83.8%
③ 治療をすれば、症状の進行を遅らせることができる	126人	52.5%
④ 認知症にはなりたくない	170人	70.8%
⑤ 介護負担が大きく、家族が大変になる	190人	79.2%
⑥ 自分や家族が認知症になったらと思うと不安に感じる	166人	69.2%
⑦ ひとり歩きをして道に迷ってしまう	140人	58.3%
⑧ 物忘れが増えて、探し物が多くなる	143人	59.6%
⑨ 家族のことや自分のことがわからなくなる	167人	69.6%
⑩ 何度も同じことをしたり聞いたりする	163人	67.9%
⑪ 被害妄想がある	129人	53.8%
⑫ 日にちや時間がわからなくなる	128人	53.3%
⑬ ふさぎこんだり、急に怒ったりする	113人	47.1%
⑭ 好きだったことに関心がなくなる	103人	42.9%
⑮ 作り話をする	48人	20.0%
⑯ 実際にないものが見えたり聞こえたりする	88人	36.7%
⑰ 治らない	70人	29.2%
⑱ 特に何も思い浮かばない	2人	0.8%
⑲ その他	1人	0.4%

●⑲その他の回答

・脳の萎縮だから仕方がない



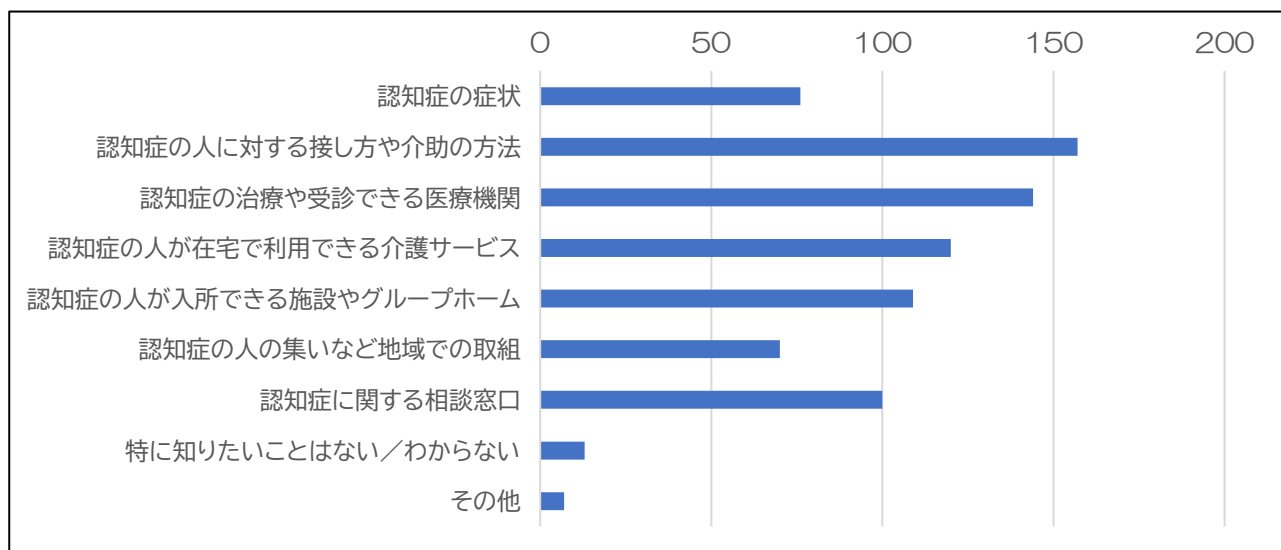
(認知症への関心)

Q8 あなたは認知症についてどのようなことを知りたいですか。(複数選択可)

選択肢	回答者数	構成比
① 認知症の症状	76人	31.7%
② 認知症の人に対する接し方(話しかけ等)や介助の方法	157人	65.4%
③ 認知症の治療や受診できる医療機関	144人	60.0%
④ 認知症の人が在宅で利用できる介護サービス	120人	50.0%
⑤ 認知症の人が入所できる施設やグループホームなど	109人	45.4%
⑥ 認知症の人の集いなど地域での取組	70人	29.2%
⑦ 認知症に関する相談窓口	100人	41.7%
⑧ 特に知りたいことはない/わからない	13人	5.4%
⑨ その他	7人	2.9%

●⑨その他の主な回答

- ・自分の脳の状態
- ・日常生活で実践できる認知症の予防策
- ・新しい認知症治療薬の効果と安全性、治療費を安く抑えるための工夫等
- ・初期症状

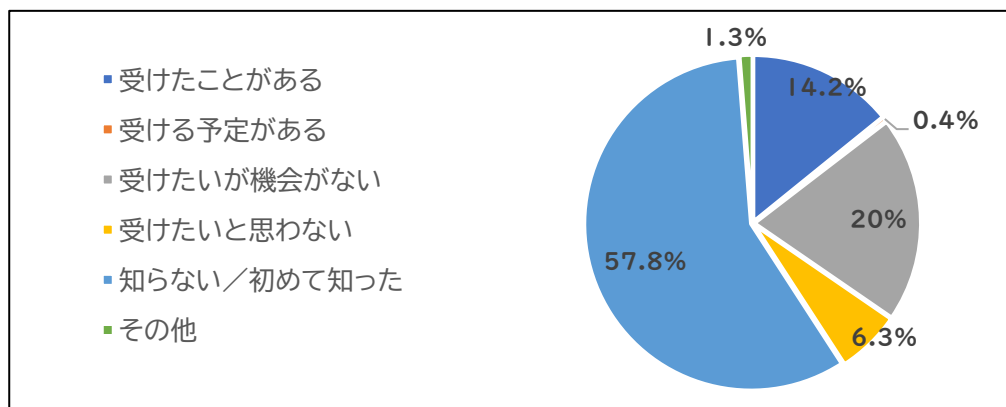


Q9 認知症を正しく理解し、自分のできる範囲での手助けをする認知症の人や家族の応援者のことを「認知症サポーター」といいます。県や市町等では「認知症サポーター養成講座」を行っていますが、当てはまるものを選んでください。（1つ選択）

選択肢	回答者数	構成比
① 認知症サポーター養成講座を受けたことがある	34人	14.2%
② 認知症サポーター養成講座を受ける予定がある	1人	0.4%
③ 認知症サポーター養成講座を受けたいと思うが、機会がない	48人	20.0%
④ 認知症サポーター養成講座を受けたいとは思わない	15人	6.3%
⑤ 「認知症サポーター」を知らない/初めて知った	139人	57.8%
⑥ その他	3人	1.3%
回答	240人	100%

●⑥その他の主な回答

- ・認知症サポーター養成講座を受けたいと思うが、受講参加までの心理的なハードルが高い
- ・介護福祉士を取得しているので必要としていない
- ・職場で認知症の人と常に接している



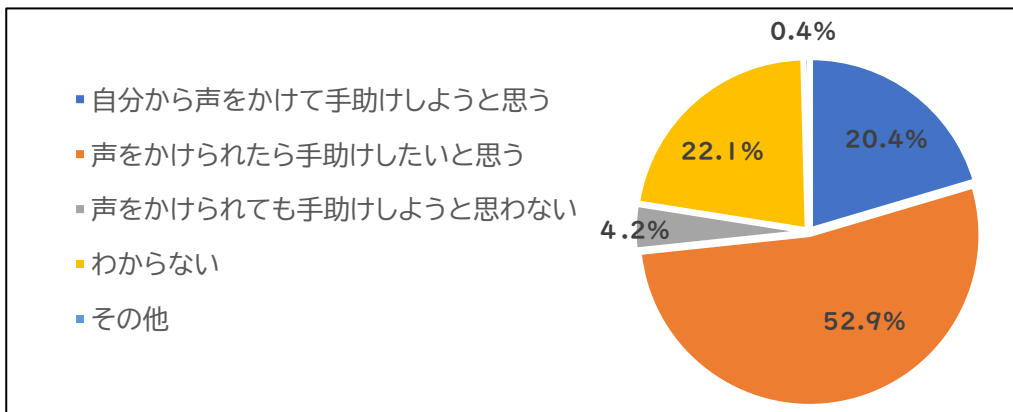
(認知症の人に対する対応)

Q10 あなたは認知症かもしれない人を見かけたらどのように対応しますか。(1つ選択)

選択肢	回答者数	構成比
① 自分から声をかけて手助けしようと思う	49人	20.4%
② 声をかけられたら(頼まれたら)、手助けしたいと思う	127人	52.9%
③ 声をかけられても、手助けしようとは思わない/できない	10人	4.2%
④ わからない	53人	22.1%
⑤ その他	1人	0.4%
合計	240人	100%

●⑤その他の主な回答

・徘徊等と思われたり、不審な行動がみられたならば、まずは、警察に通報して保護を考える

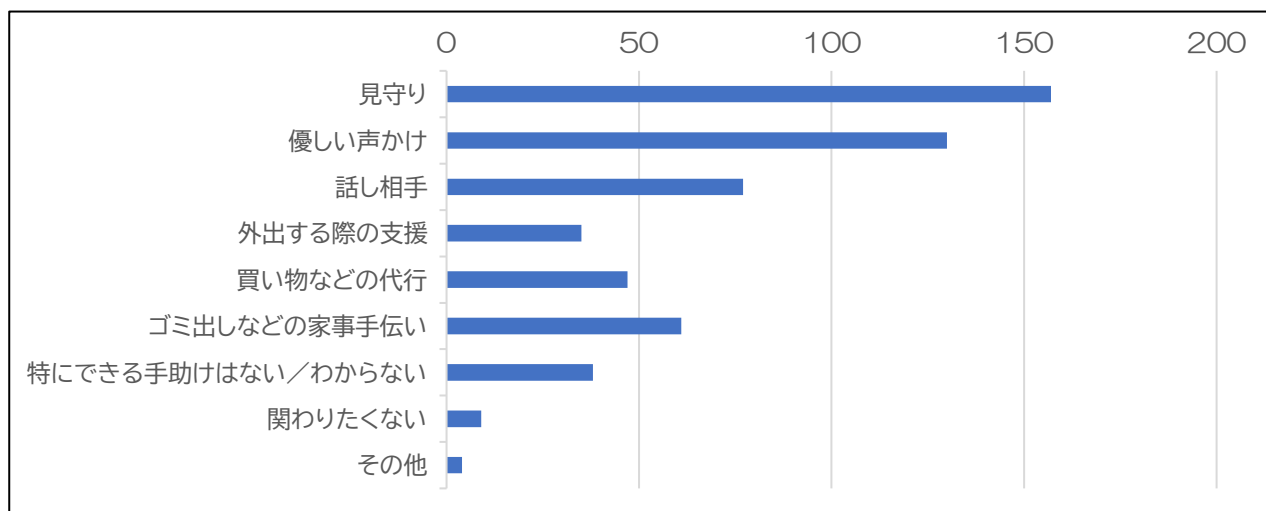


Q11 あなたは地域で暮らす認知症の人に対してどのような手助けができる（できそうだ）と思いますか。（複数選択可）

選択肢	回答者数	構成比
① 見守り	157人	65.4%
② 優しい声かけ	130人	54.2%
③ 話し相手	77人	32.1%
④ 外出する際の支援	35人	14.6%
⑤ 買い物などの代行	47人	19.6%
⑥ ゴミ出しなどの家事手伝い	61人	25.4%
⑦ 特にできる（できそうな）手助けはない/わからない	38人	15.8%
⑧ 関わりたくない	9人	3.8%
⑨ その他	4人	1.7%

●⑨その他の主な回答

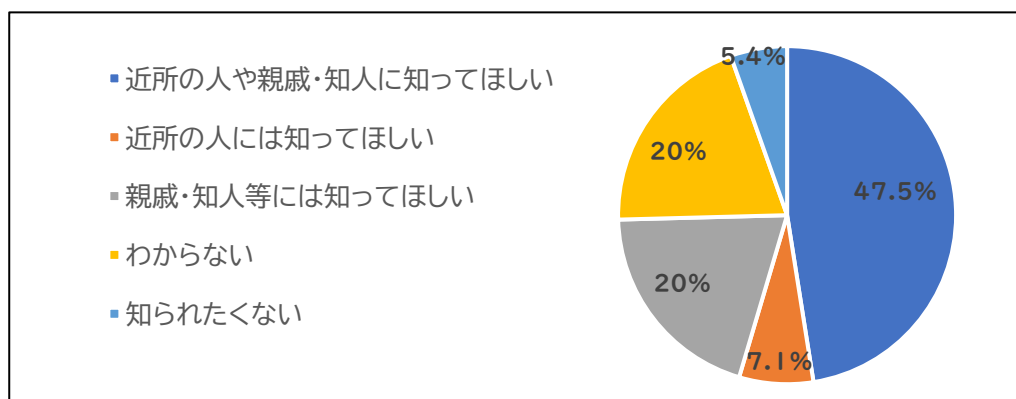
- ・「関わりたくない」というのではないが、関わって何かあった場合の責任を負えないと思う気持ち強い
- ・その時その時に対応するしかない
- ・どのようなことが必要か知りたい
- ・認知症の方と接する機会がない



(認知症に対する当事者意識)

Q12 あなたは自分や家族が認知症になったとき、そのことを周りに知ってほしいと思いますか。
(1つ選択)

選択肢	回答者数	構成比
① 近所の人や親戚・知人等を知ってほしいと思う	114人	47.5%
② 近所の人には知ってほしいと思う	17人	7.1%
③ 親戚・知人等には知ってほしいと思う	48人	20.0%
④ わからない	48人	20.0%
⑤ 認知症であることを知られたくない	13人	5.4%
合計	240人	100%

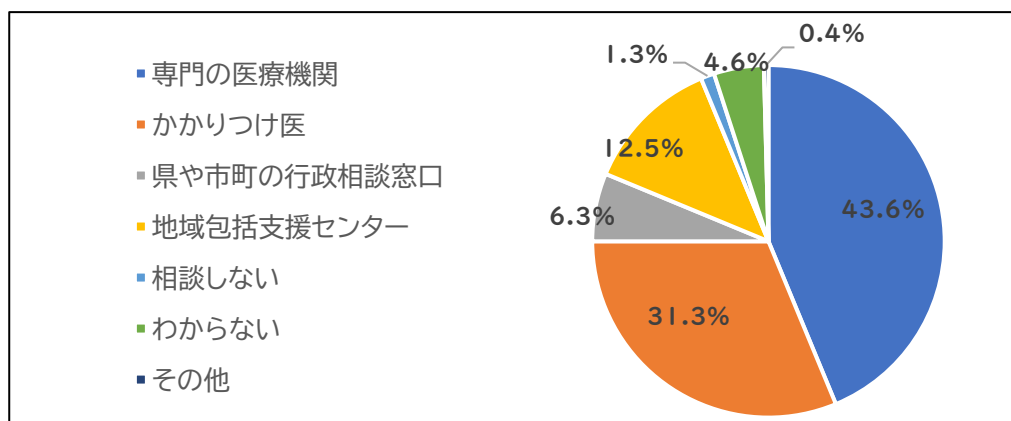


Q13 あなたや家族が認知症になったとき、まずどこに相談しますか。(1つ選択)

選択肢	回答者数	構成比
① 専門の医療機関	105人	43.6%
② かかりつけ医	75人	31.3%
③ 県や市町の行政相談窓口	15人	6.3%
④ 地域包括支援センター	30人	12.5%
⑤ 相談しない	3人	1.3%
⑥ わからない	11人	4.6%
⑦ その他	1人	0.4%
合計	240人	100.0%

●⑦その他の回答

・親類

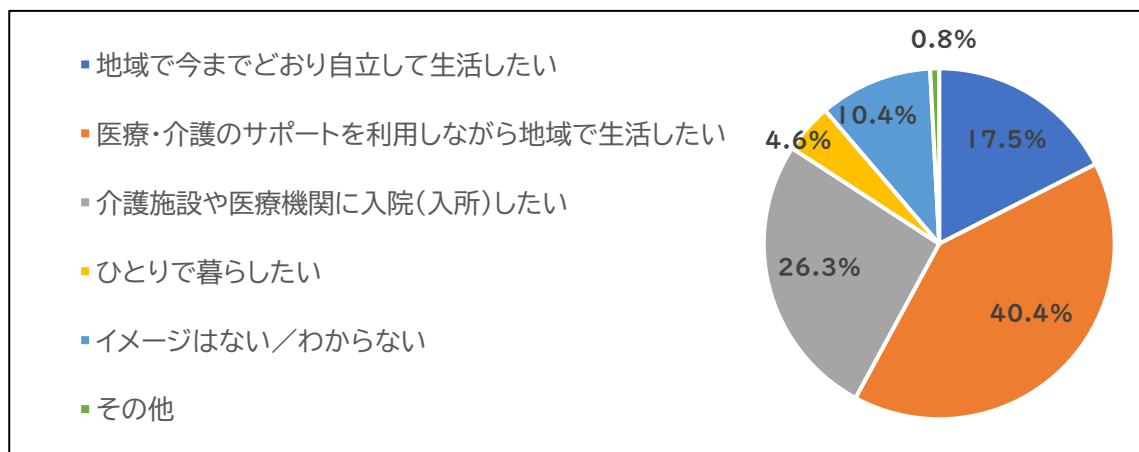


Q14 あなたが認知症になったとき、どこで、どのように生活したいですか。（1つ選択）

選択肢	回答者数	構成比
① 今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立して生活していきたい	42人	17.5%
② 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	97人	40.4%
③ 認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設や医療機関に入所（入院）して必要なサポートを利用しながら暮らしたい	63人	26.3%
④ 認知症になったら、誰にも迷惑をかけないように、ひとりで暮らしていきたい	11人	4.6%
⑤ 特にイメージはない/わからない	25人	10.4%
⑥ その他	2人	0.8%
合計	240人	100%

●⑥その他の主な回答

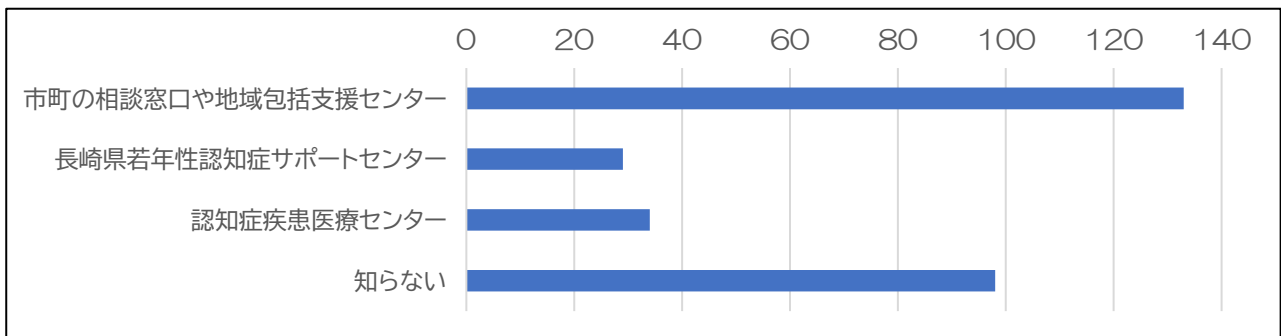
- ・自分で認知症になってしまったらベストな状況判断できないと思うので、家族に決めてほしい
- ・私も含めて皆さんなりたくないと思う。最後は自分の家での生活が本人の為と知っているが、現実には金銭面での苦勞がかなりあると思うので、子供への負担は避けたい



（地域で暮らす認知症の人に対する支援策）

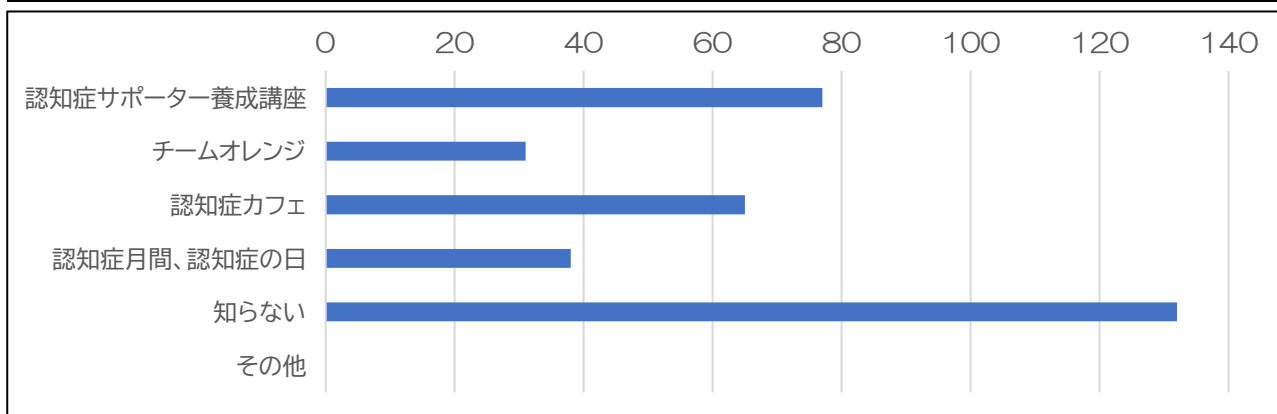
Q15 認知症に関する相談窓口があることを知っていますか。知っているものを選んでください。（複数選択可）

選択肢	回答者数	構成比
① 市町の相談窓口や地域包括支援センター	133人	55.4%
② 若年性認知症の相談窓口である「長崎県若年性認知症サポートセンター」	29人	12.1%
③ 認知症に関する詳しい診断や症状への対応、相談などを行う専門の医療機関として県が指定する「認知症疾患医療センター」	34人	14.2%
④ 知らない	98人	40.8%



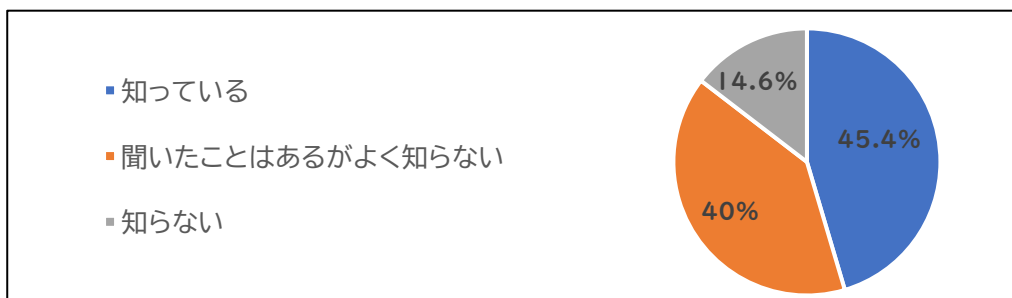
Q16 あなたは県や市町が実施している取組を知っていますか。知っているものを選んでください。(複数選択可)

選択肢	回答者数	構成比
① 認知症を正しく理解し、自分のできる範囲での手助けをする認知症の人や家族の応援者である「認知症サポーター」の養成講座	77人	32.1%
② 近所の認知症サポーターによる認知症の人や家族に対する生活面の支援等を行う「チームオレンジ」	31人	12.9%
③ 認知症の人やその家族、地域住民などが交流できる「認知症カフェ」	65人	27.1%
④ 「認知症月間（世界アルツハイマー月間）」（9月）、「認知症の日（世界アルツハイマーデー）」（9月21日）	38人	15.8%
⑤ 知らない	132人	55.0%
⑥ その他	0人	0%



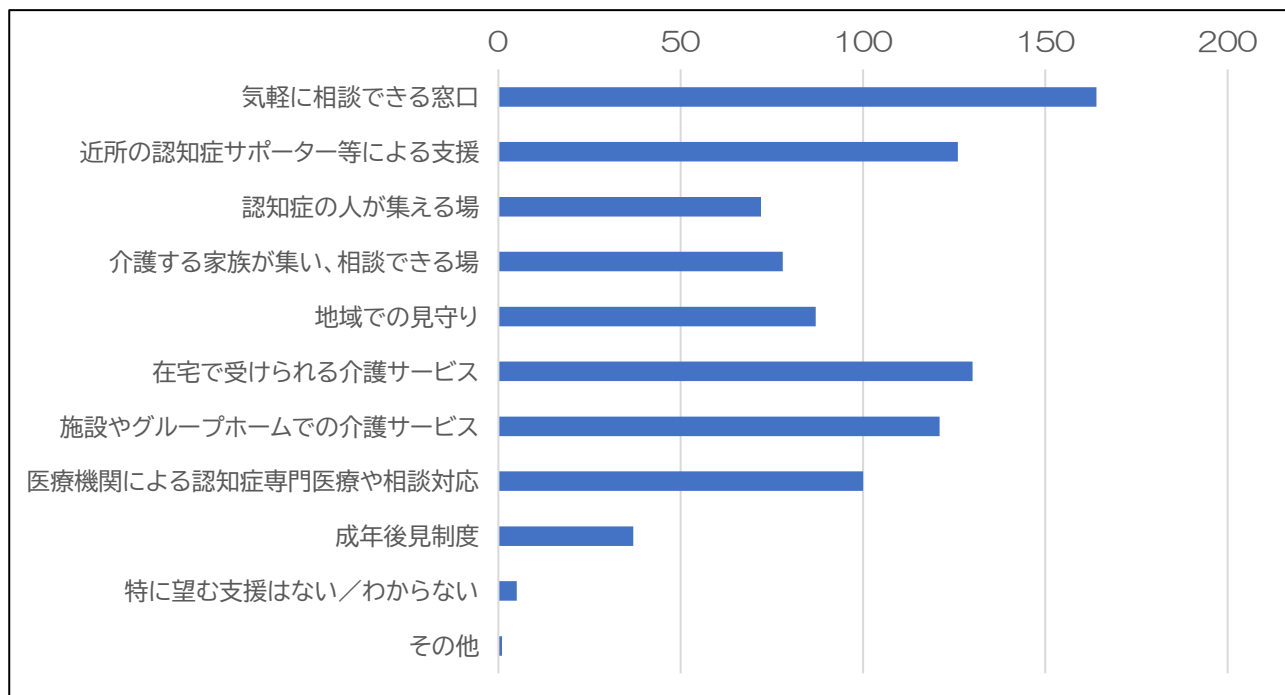
Q17 あなたは、認知症などで判断能力が不十分な人の財産管理や日常生活での契約などを支援する制度「成年後見制度」を知っていますか。(1つ選択)

選択肢	回答者数	構成比
① 知っている	109人	45.4%
② 聞いたことはあるがよく知らない	96人	40.0%
③ 知らない	35人	14.6%
合計	240人	100%



Q18 あなたや家族が認知症になったとき、どのような支援を望みますか。（複数選択可）

選択肢	回答者数	構成比
① 気軽に相談できる窓口	164人	68.3%
② 近所の認知症サポーター等による、困りごとの相談や生活面の支援	126人	52.5%
③ 認知症の人が通える集いの場	72人	30.0%
④ 介護する家族が集い、相談できる場	78人	32.5%
⑤ 地域での見守り	87人	36.3%
⑥ 在宅で受けられる介護サービス	130人	54.2%
⑦ 認知症の人に対応する施設やグループホームでの介護サービス	121人	50.4%
⑧ 医療機関による認知症専門医療や相談対応	100人	41.7%
⑨ 成年後見制度	37人	15.4%
⑩ 特に望む支援はない/わからない	5人	2.1%
⑪ その他	1人	0.4%



(自由意見)

Q19 今後の認知症支援施策に対して期待することやご意見、ご要望などありましたら、自由にお書きください。

●主な回答

〈周知・啓発や学習について〉

- ・認知症に対しての相談方法を知らない人も多いので周知していくことが必要。介護保険外サービス事業の周知も不足していると感じる。
- ・具体的な対応法があることがあまり知られていないと思う。広く啓発してもらいたい。
- ・今後も多くの人が認知症となることを前提とすれば、医療機関や行政がもう少し積極的に認知症対策の各種講座などを開設したら少しでも心構えや対応ができるのではないかな。
- ・認知症になった時、どんな行政サービスが受けられるのか。市報やCMでもっと配信してほしい。
- ・認知症は、誰しものが発症する可能性があり、認知症の方を決して差別したり、虐待してはなりません。そのことを広く誰もが認識できるよう、理解の醸成を深めていける施策に期待する。
- ・広報誌などに定期的に相談先などの掲載をしてもらえていたら、咄嗟の時も安心。
- ・どの程度の症状があったら、どんな制度の対象になるのか、支援があるのか、町内会などで集めて説明して欲しい。
- ・支援の窓口を広く、分かりやすくして欲しい。
- ・認知症は誰でもなりえる病気なので世の中に理解を深める機会が多くなれば良い。
- ・家族だけで支える事が当たり前という考え方は、間違いだと、もっと多くの人に浸透させて、家族以外にたくさん頼る事で、笑顔で余裕を持って接する事ができるともっと広報してほしい。
- ・気軽に相談できる場所を、身近にほしい。探さなくても誰でも認知できる場所にほしい。
- ・制度など、意外と知らない人が多いはずなので、まずは認知してもらうことに力を入れてほしい。
- ・自分自身が認知症になった場合や周りがなった場合は正直怖い。認知症になる前の予防策やなった場合の生活についてもっと自分なりに勉強したい。
- ・家族がもし認知症になった時どうしたらいいのか現時点では分からないので、認知症を正しく理解し、自分のできる範囲での手助けをしていきたいと思うので機会があれば「認知症サポーター養成講座」を受けたい。

〈対応について〉

- ・認知症は、誰でもなりうる病気であり、周囲の理解が必要。本人よりも周囲の家族が振り回されて疲弊しているように見えるので、少し距離を置く事が大事だと思う。
- ・認知症にも重度の人、軽症の人がいてそれぞれ対応が違ってくると思う。軽症の人にはそれとなく気がけて対応しているが、重症ともなるとどうしても素人では難しくなる。
- ・認知症サポーターの養成講座を受けたが、その後それを生かす場、機会がない。
- ・過去に自分の肉親が認知症になったが、自分を含め認知症への理解がなかったせいもあり、周りが大変な思いをした。現在は公的な制度や仕組みなどが確立されてきているとはいえ、自分や自分の周りで認知症となった場合、周りの大変さを思うと、正直憂鬱になる。

- ・何か手助けをしたいなと思っても、何かあったときに責任を問われるこの世の中ではとても厳しいと思う。

〈予防や治療などについて〉

- ・認知症を防ぐ食生活や生活習慣に心がけている。いろんな情報を発信していただきたい。
- ・認知症にならないための取り組み（例 食事や生活習慣など）も併せて周知してほしい。
- ・スマホ認知症などもあるようなので、誰でもなり得るものだとして認識している。ならないために出来ることもしつつ、もし認知症になってしまっても対応できるようにしておきたい。
- ・認知症にならないように頭の体操と身体の体操を続けたい。
- ・認知症にならないような予防策の講座や講話を聴きたい。
- ・認知症については、それになったあとの支援策をどうするか視点に重きを置いているが、それと同時にその予防策についても取り上げられるべきではないか。
- ・認知症の薬に関する情報発信をしてもらいたい。
- ・薬の開発をお願いしたい。
- ・認知症が完全に回復するといかないまでも、現在より数段改善する処方薬が、一般の人に購入できる値段で販売されるのを望む。
- ・高齢者向けの健康診断の中に認知度をチェックする仕組みを組み込み、家族に共有できるようにしてほしい。

〈支援・制度や見守り体制などについて〉

- ・車がないと生活に支障が出るため、免許返納後の支援が必要。
- ・高台に居住しているので、病院や買い物、行政相談等の支援をしてもらえると助かる。
- ・とにかく周囲が疲弊しないように相談窓口があればよい。誰もがなる可能性があるのも、理解のある優しい社会になるといいと思う。
- ・認知症は誰にでも起こりうることで、どの医療機関を受診すればいいのか、家族にできること周りの人が手助けできることが何なのか、在宅で介護するときに孤立しないように国や県や市のサポート支援などがあるのか、専門家や、当事者の方の意見を聞いてみたい。
- ・家族で認知症になる人がいても、仕事をしながら家族で支援できるように、周囲が支援をしてくれる体制がさらに充実することを願っている。
- ・認知症の家族に対する支援を広げてほしい。介護離職は避けてほしい。
- ・介護のために貴重な労働者が労働出来なくなることがないように、社会全体で支援出来ればいいと思う。
- ・家族や支援者の負担が大きいので、対策が必要。
- ・認知症になりたくてなる人はいない。個人としてはならないために何が出来るか、既に診断された人にどのような支援が出来るか、真剣に考えていきたい。町や県が支援をしてくださるのは非常に心強く、有り難い。
- ・何かしたいと思っても、どうすれば良いかわからない人たちの受け皿になるような支援機関が必要。またそれぞれの団体に横串を通して、連携や情報共有をスムーズに行うことが重要だと思う。
- ・市民後見人育成、自治体による後見人への報酬等助成の充実を希望する。

- ・成年後見制度の利用は、手続きが個人では難しいところもあり、専門家に相談するとなると結構費用もかかり、気に病むところ。
- ・成年後見制度について、過去に調べたことがあるが、制度自体が利用しにくいと感じた。
- ・今後は若くして認知症になる人が増えてくると思われる。地域でもっと見守り体制がとれるようにしていかなければと思う。
- ・認知症の方が犯罪にまきこまれないよう注意する取り組みもあった方が良い。
- ・行方不明になった時に、地域への連絡がすぐにできるようにして、助けてもらえるようにしてほしい。
- ・長崎県は離島が多いので、ICTを活用した遠隔支援や情報共有システムの導入に期待する。
- ・今後増えるであろう認知症高齢者に対応するため、認知症介護人材の確保・育成にも力を入れてもらいたい。
- ・精神科や専門施設だけでなく、地域の中小医療機関とも連携しながら見守る体制作りをお願いしたい。
- ・離れて暮らす親が認知症で、グループホーム探しも難航した。周囲に詳しい人もおらず公的な機関に質問攻めだったが、初歩的な内容でももっと気軽に問合せできるシステムを構築してもらいたい。

〈その他〉

- ・YouTubeでたまたまユマニチュードの特集があっていて目から鱗だった。実際、認知症で寝たきり、声も出ない私の家族にやってみると返事が返ってくるようになり感激した。長崎県、国全体でもユマニチュードの関わりを広めて欲しい。
- ・認知症は個々の問題ではなく社会問題だと思う。これからの超少子高齢化社会において、「私には関係ない」とは思えない。家族のサポートについて、行政に相談したい人はいっぱいいると思う。相談窓口をオープンにしてほしい。また、自分自身もなってしまうことは十分に考えられる。「エンディングノート」などを利用して、自分がどのような生活をしていきたいのか、家族に知らせておくことが大切だと思う。
- ・高齢者に限らず、若年層でも発症する可能性があることを知った。もし、自分や家族、友人など、身近な人が認知症になってしまった時、心を落ち着けて受け止め、焦らずに病気と向き合う心を持てるような、周囲に頼れる人、場所、方法がいつでも、いくつかすぐに思いつけるようにしておくことが必要だと思った。
- ・介護する人とされる人がよりよい生活ができる社会になってほしい。
- ・自宅で家族が見守れるのが一番良いが難しい場合もあると思う。安価で安心して預かってくれる施設があると助かる。空いている学校などの施設を生かすとか、元気な老人が職員として働くとか、何か働きながら資格が取れる学校を併設して働きながら学べるシステムを確立するとか、そういうのを病院とか行政が考えて、うまくいくといい。